

科学と学校教育との協働の推進は、
未来を担う若者の育成・成長に直結する
喫緊の課題です。

ESD・SDGsの実践や

我が国の周囲に広がる海からの学びの

実践を通して、持続可能な社会を

いかにつくっていくかについて、

生徒や学生を含む広範な人々と

議論するためのシンポジウムを開催します。

2019.9.8 ^{SUN}
13:00~17:00

日本学術会議講堂

日本学術会議主催学術フォーラム

Future
Earth symposium と

学校教育



主催：日本学術会議

後援：地理学連携機構、日本ESD学会、
ESD活動支援センター、特定NPO法人ESD-J、
公益財団法人ユネスコアジア文化センター

持続可能な社会と海洋の実現を目指して

Future Earthと学校教育

シンポジウム
symposium

持続可能な社会と海洋の実現を目指して

令和元年9月8日(日)

13:00~17:00

日本学術会議講堂

[総合司会]

鈴木康弘

日本学術会議連携会員、

名古屋大学減災連携研究センター教授

持続可能な社会を目指す国際プログラムFuture Earthは、科学と社会の協働によるCo-design、Co-productionを重視するとともに、ESDやSDGsの推進に積極的に取り組むことが求められている。また、海洋教育も重要な課題になりつつある。フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会・持続可能な発展のための教育と人材育成の推進分科会は、今年1月に公開ワークショップ「Future Earthと学校教育：ESD/SDGsをどう実践するか」を実施し、6月には「Future Earthと学校教育：海の学びと人材育成」を実施した。本シンポジウムにおいては2回のワークショップで紹介された学校教育における実践例に基づいて、方法論と課題を整理するとともに、科学と学校教育が協働することにより、具体的にどのような人材が育成できるか、また持続可能な社会づくりに向けて社会をどのように変えていけるのかについて、中学・高校生や大学生を含む広範な人々と共に議論する。

13:00-13:10

●開会挨拶・趣旨説明

氷見山 幸夫(日本学術会議連携会員、北海道教育大学名誉教授)

13:10-13:30

●「ESDとSDGsの実践を通じて持続可能な社会をいかにつくるか」

小金澤 孝昭(日本学術会議特任連携会員、宮城教育大学教育学部特任教授)

13:30-13:45

●「ESD/SDGsを実践する視点と戦略」

及川 幸彦(東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センター主幹研究員)

13:45-14:00

●「小中高大の一貫教育におけるESDの位置づけと実践」

小田 宏信(成蹊大学経済学部教授)

14:00-14:15

●「小学校におけるESD/SDGs授業実践から考える」

佐々木 哲弥(東京都杉並区立西田小学校教諭)

14:15-14:30

●「SGHからSDGsへ：サウジアラビアとイランの関係」

ヴェムリ ハルシュ(玉川学園高等部3年生)・破合 宗隆(玉川学園高等部教諭)

14:30-14:45

休憩

14:45-15:05

●「海の学びから持続可能な社会をいかに実現させるか」

日置 光久(日本学術会議連携会員、東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センター特任教授)

15:05-15:20

●「実験から学ぶ海洋教育とその意義」

丹羽 淑博(東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センター特任准教授)

15:20-15:35

●「海洋教育」の現状と将来展望」

川上 真哉(東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センター特任研究員)

15:35-15:50

●「マイ・ユニ飼育から海を学ぶ」

小川 博久(君津市立北子安小学校校長)

15:50-16:05

●「SSHの取り組み：爆弾低気圧と黒潮」

飯田 毅(東京都立戸山高等学校2年生)・内記 昭彦(東京都立戸山高等学校主任教諭)

16:05-16:55

●ディスカッション

山口 しのぶ(日本学術会議連携会員、東京工業大学学術国際情報センター教授)

16:55-17:00

●閉会挨拶

花木 啓祐(日本学術会議連携会員、東洋大学情報連携学部教授)

日本学術会議講堂

〒106-8555 東京都港区六本木 7-22-34

東京メトロ千代田線 乃木坂駅 5番出口

問い合わせ・参加申し込み先：日本学術会議事務局企画課学術フォーラム担当

〒106-8555 東京都港区六本木 7-22-34 電話：03-3403-6295

申し込みフォーム：<https://form.cao.go.jp/scj/opinion-0003.html>

